

# 序 論



# 第 1 章 計画の概要

## (1) 総合振興計画とは

総合振興計画は、本村の村づくりの指針を総合的・体系的にまとめた村の最上位に位置付けられる計画であり、福祉、産業、教育、防災といったすべての計画の基本となるものです。

これまで本村では第5次までの計画を策定したほか、東日本大震災により第5次総合振興計画が中断された際には「いいたてまでいな復興計画」を策定し、様々な復興事業を行ってきました。

この度、東日本大震災から10年が経過することに伴い、新しい村づくりを進めるため、「飯舘村第6次総合振興計画」を策定しました。

### ・過去に策定した総合振興計画等

計画年	計画名
昭和 43 年	村勢振興計画
昭和 52 年	飯舘村総合計画
昭和 60 年	飯舘村第 3 次総合振興計画
平成 6 年	飯舘村第 4 次総合振興計画
平成 16 年	飯舘村第 5 次総合振興計画
平成 23 年	いいたてまでいな復興計画

## (2) 計画の構成と期間

この計画は、「基本的な考え方」と「基本計画」から構成されています。計画期間は令和3年度から令和7年度までの5年間です。「基本的な考え方」は村づくりの方向性を示しています。「基本計画」は基本的な考え方に沿った村づくりのための方針や事業を示しており、重点事業は特に優先的に取り組むものです。

また、この計画は、地域福祉計画を含む内容とします。

なお、本計画を実施していくための実施計画については、別途、本計画を基に財政状況や地域ごとの状況を踏まえながら策定します。

## (3) 計画の対象事業

この計画の対象事業は、村や村民が直接事業主体となる事業のほか、必要に応じて国、県及び民間等が事業主体となる事業も含めるものとします。

## 第2章 計画策定に向けての基本認識

### (1) 村の概況

村は福島県の北東に位置し、浜通りに属していません。東西 15.2 km、南北 18.1 km、総面積は 230.13 km<sup>2</sup>です。総面積の約 75%を山林が占めています。相馬地方一高い花塚山などを除き、山地の傾斜はなだらかで、河川流域に耕地が開かれ 20 の集落が点在しています。

村のほぼ中央を通過する県道原町川俣線を利用すると、南相馬市原町区の中心部までは約 30 km、福島市までは約 40 kmです。



### (2) 村の財政状況見通しと人口推移

村の財政状況について、令和 2 年度から令和 7 年度までの見通しは次のとおりです。令和 2 年度以降は、一部復興事業は残りますが、収入見込額、支出見込額ともに段階的に減っていく見通しです。

今後は通常事業が主になりますが、復興期間で建てられた施設の維持管理費は以前よりも高い水準で推移することが見込まれるため、貯金（基金）の積立をするなど、将来を考えた財源の確保が必要です。

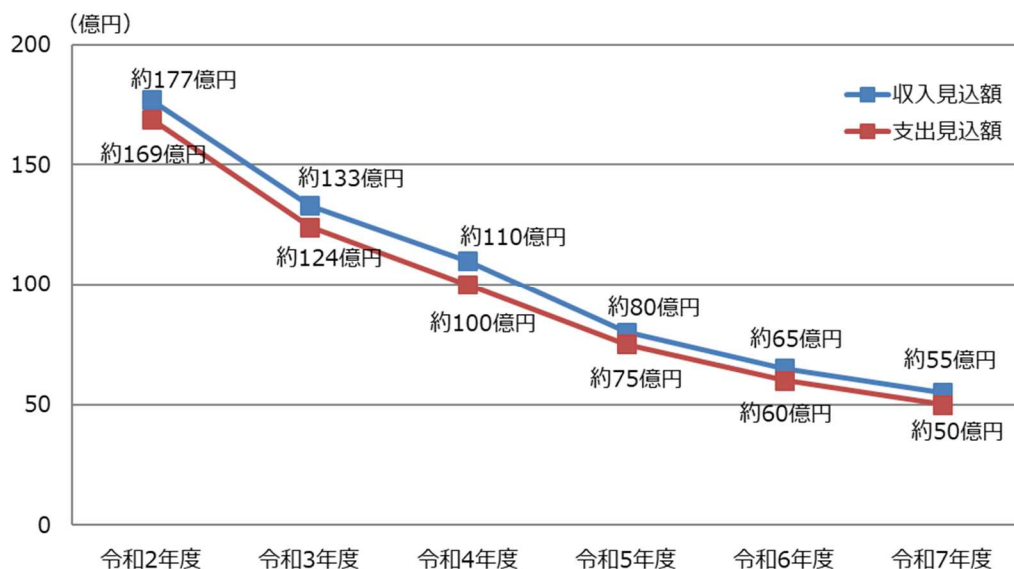


図. 今後5年間の財政の見通し（飯舘村）

村の地方債期末現在高の令和2年度から令和7年度までの見通しは次のとおりです。村では近年、借金はあまり借りずに、少しずつ返済をしているので、借金の残高は減少していく見込みです。今後も事業を十分に精査して、借金を増やさないような財政運営に努めていきます。

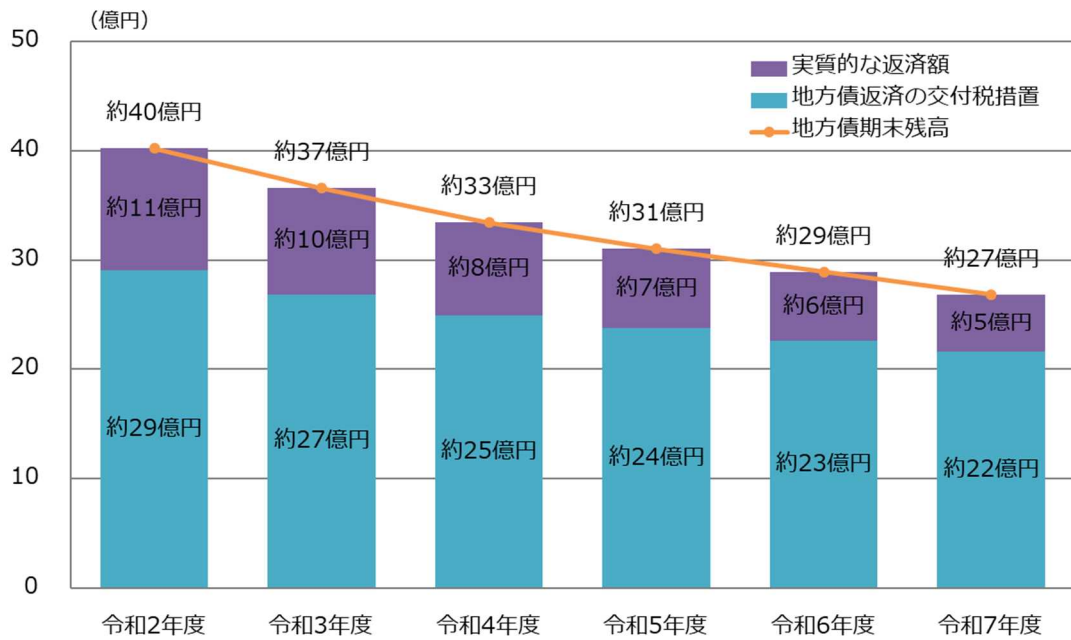


図.村の借金（地方債期末現在高）の推移

平成24年以降の人口については、平成27年の6,723人を頂点として減少傾向にあり、令和2年3月1日時点において5,438人（避難者数4,023人、村内居住者数1,412人、不明3人）となっています。

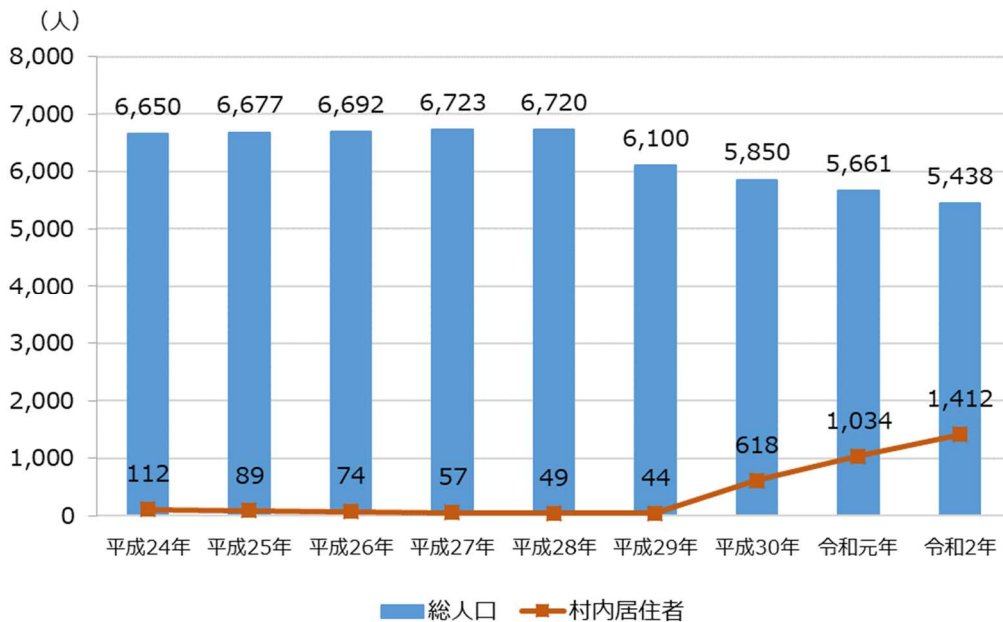


図.村の人口推移（住民基本台帳 各年3月1日現在）



# 基本的な考え方



村づくりのキャッチフレーズ

ものは引き算、  
こころは足し算の村づくり

～ ちょっと住む 時々住む ずっと住む  
みんないいかも いいたて村 ～

## 村づくりのキャッチフレーズ

# 「ものは引き算」とは

私たちは震災を経験して、品ものやお金だけでは手に入らない当たり前の日々の暮らしがいかにか大切であるかということに気付かされました。

本当に必要なものを見極め、便利さだけを求めすぎない持続可能な暮らしを推進し、村民がより精神的に豊かな生活を送ることを目指します。

これまで当たり前だった「もの・こと」あるいは、マイナスとして捉えていたものを見つめ直し、村の魅力を再発見していきましょう。



など…



## 『ものは引き算』 関係重点事業一覧

基本的な考え方に沿って、各分野で特に重点的に進める事業

- **健康診断受診率向上事業** ⇨P25  
健康診断の待ち時間等を楽しく有意義に
- **ごみ減量推進事業** ⇨P35  
ゴミ減量を推進し、循環型の村づくりを進める
- **省エネ推進・家庭用再生可能エネルギー導入支援事業** ⇨P35  
再生可能エネルギーや省エネを推進し環境の負荷を低減
- **空き家・空き地利活用促進事業** ⇨P48  
空いている家・土地に出番を
- **しみじみマスタープロジェクト等食文化継承事業** ⇨P52  
村に元々ある食材を活かした食文化の継承による食育
- **いいたて留学事業** ⇨P53  
村に短期留学したい子どもを受け入れる
- **厳寒キャンプ事業** ⇨P55  
冬の寒さを活かした運動不足や交流不足の解消
- **住民主体の移動手段整備推進事業** ⇨P66  
車をみんなでシェアする生活
- **景観形成推進事業** ⇨P67  
今ある村の自然や風景を磨き上げる
- **村民との協働による村道管理の継続** ⇨P68  
村民自ら村道の維持管理を行うことで村財政の維持や地域交流につなげる
- **行政区地区別計画の策定** ⇨P70  
あるものに目を向け魅力的な地域をつくりあげる
- **健全財政維持検討事業** ⇨P71  
限られた財源をうまく使う
- **行政サービス迅速化・利便性向上推進事業** ⇨P71  
コンビニ等の今ある場所を活用しながら生活の利便性確保を目指す

村づくりのキャッチフレーズ

「こころは足し算」とは

までいライフの精神を土台とし、お互いさまの優しい気持ちで地域や家族のあり方を大切にする。今まで村が大切にしてきた共助の関係を再構築します。

多くの村民が村づくりに参加できる役割・出番づくりを推進し、村の様々な課題を解決していきましょう。人と人、人と地域…、多様なつながりが、村民の精神的な豊かさを育みます。

お互い様の心で  
協力できる仕組みづくり



食の提供、  
食を通じた  
地域交流



住民みんなで  
協力して  
課題を解決



など…



## 『こころは足し算』 関係重点事業一覧

基本的な考え方に沿って、各分野で特に重点的に進める事業

- **健康交流イベント実施事業** ⇨P25  
イベントの開催に住民が参加することによる交流促進と健康づくり
- **健康料理普及拡大事業** ⇨P26  
飯舘産食材の復活と料理による村民の村づくりへの参加
- **地域交流キッチンカー事業** ⇨P27  
キッチンカー等食を通じた交流や健康づくり
- **地域お助け合い事業内容拡充推進事業** ⇨P31  
お隣さんと共にこまりごとを解決しあおう
- **村民取材班導入事業** ⇨P32  
村民の得意なことを動画や冊子に残し生きがいをつくる
- **短期間求人募集制度構築事業** ⇨P38  
農作業の短時間求人など、誰もが柔軟に働き、助け合える求人システム
- **地域運営組織支援事業** ⇨P39  
村民同士の共助を支援する
- **生きがい農業者等ステップアップ支援事業** ⇨P41  
趣味から仕事へつながるような新しいステップアップを支援
- **新規就農者向けコーディネート等推進事業** ⇨P42  
村民の技術や知識を共有できる「教える教わる」環境づくり
- **「時を満喫・人生をもっと楽しく」講座** ⇨P56  
苦手を克服して人生をもっと楽しもう
- **「いい本、たまには、てにする」運動** ⇨P56  
読書を推進し、心をたがやす
- **いいたてようつべ事業** ⇨P58  
動画やSNSを利用し、離れていても文化をつなごう
- **いいたて物語プロジェクト実施事業** ⇨P59  
地域の伝承のほりおこし等を通じて、ふるさととの繋がりを強くする
- **いいたて食堂プロジェクト実施事業** ⇨P60  
食を通してふるさとを見直し、コミュニティを強くする
- **地域防災力向上事業** ⇨P62  
災害に備えることが地域力をつくる



村づくりのキャッチフレーズ

「ちょっと住む 時々住む ずっと住む  
みんないいかも いいたて村」とは

村に住みたくても住めない方、たまに村に通う方、全国から応援してくれる方、村に住んでいる方…様々なスタイルの暮らし方がある飯館村。どのような住み方でも村との関わりを感じられ、みんなで協力して多様性を認めあう村を目指します。

さらに、関係人口や定住希望者の増加や安心してずっと住める取り組みを推進し、村の活性化を図りましょう。

安心してずっと住める  
体制づくり



定住移住支援



どこに住んでも  
村との関わりを  
感じられる村へ



など…



# 『ちょっと住む 時々住む ずっと住む みんないいかも いいたて村』関係重点事業一覧

基本的な考え方に沿って、各分野で特に重点的に進める事業

- 各事業に参加しやすい仕組みづくりや紹介方法の工夫  
どこに住んでいても村づくりに関わりやすい環境づくり
- 在宅医療推進事業 ⇨P28  
医療や福祉の充実を目指し、ずっと安心して住める体制をつくる
- いいたてホーム人材確保推進事業 ⇨P33  
いいたてホームの機能を充実させ、ずっと住める体制をつくる
- 飯舘産米活用推進事業 ⇨P40  
ずっと住める安心づくり、備蓄米の提供による村外との繋がり
- 畜産農家増加推進事業 ⇨P43  
畜産体験による担い手発掘や関係人口拡大
- 観光・交流事業検討チーム設置等観光推進事業 ⇨P45  
村の観光と交流を元気にして関係人口を増やす
- 先輩移住者による移住相談窓口設置事業 ⇨P47  
移住希望者の不安を解消する仕組みで移住を支援
- 交流会等開催支援事業 ⇨P49  
村民同士の交流を通じた定住支援
- 里山学びのクロカン等体験学習事業 ⇨P55  
村外に住んでいても村の自然と触れ合える機会を設ける
- いいたて時間プロジェクト実施事業 ⇨P60  
ちょっとでも、時々でも、関わった時間の見える化による村内外の交流促進
- 防災力強化事業 ⇨P63  
ずっと住める安心な村づくり
- 消防体制充実・強化推進事業 ⇨P64  
企業消防隊制度の推進等による安心な村づくり



